

▲後醍醐天皇綸旨

後醍醐天皇、京都還幸直後に東寺領を安堵

元弘3(1333)年6月19日、後醍醐天皇が摂津の国垂水の庄について、濫妨を止め、寺用を全うするよう、東寺に命じた綸旨です。この年閏2月、後醍醐天皇は鎌倉幕府により配流されていた隠岐を脱出して、伯耆国船上山に立て籠もり、朝敵追討の命令を諸国に発しました。5月7日には足利高氏に攻められ六波羅が壊滅、21日には新田義貞の攻撃を受け、北条一族が鎌倉で自害し、幕府は倒壊しました。6月4日、後醍醐天皇は京都に還幸、公家一統の政治を行うこととし、次いで公家・寺社の所領を保護しました。その一環として、早々に東寺領を安堵する綸旨を下したのです。

垂水の庄は現在の大阪府吹田市南西部に位置する荘園で、鎌倉時代末期には各地で悪党が蜂起し、混乱を極めていました。その鎮圧と、東寺による支配の貫徹を求めたものです。綸旨を奉じている中御門宣明は、後醍醐天皇の蔵人として再々綸旨を発給しています。文言中の「天氣」は天皇の気持・意志を表す、綸旨に特有の語です。(第21回東寺百合文書展「奉書と直状」より)

目次	後醍醐天皇、京都還幸直後に東寺領を安堵 …………… 1	第21回東寺百合文書展 …………… 2
	文献課の窓から「京都の祭」…………… 4	歴史資料課の窓から「琵琶湖疏水建設の周辺」………… 6
	最近の収集資料から …………… 8	府民講座のお知らせ、友の会事務局から 他 …… 10

第21回 東寺百合文書展

国宝 — 奉書と直状 —

会 期 平成18年9月30日(土)～10月31日(火) (10月9日(祝)、11日(水)は休館)
午前9時～午後4時30分

会 場 京都府立総合資料館 2階展示室 (入場無料)

- 列品解説 10月7日(土)、21日(土) 午後2時～ (事前申込不要)
- 記念講演 10月19日(水) 午後2時～ (事前申込必要、申込方法は、10頁をご覧ください)
(府民講座) 「東寺百合文書の魅力を探る」
講師 上島 有氏 (摂南大学名誉教授)



律令で公文書の書式や制度が規定される以前から、書状に代表される私文書は存在しました。私人としての文書であっても、地位・身分の高い者は直接筆を執らず、側近の者に文書を出させて、意を伝えていました。こうした文書を、側近が意を奉じて出す文書、すなわち奉書といいますが、後に地位のあるものが公的な内容を奉書で伝えるようになり、奉書は公的文書として通用するようになりました。

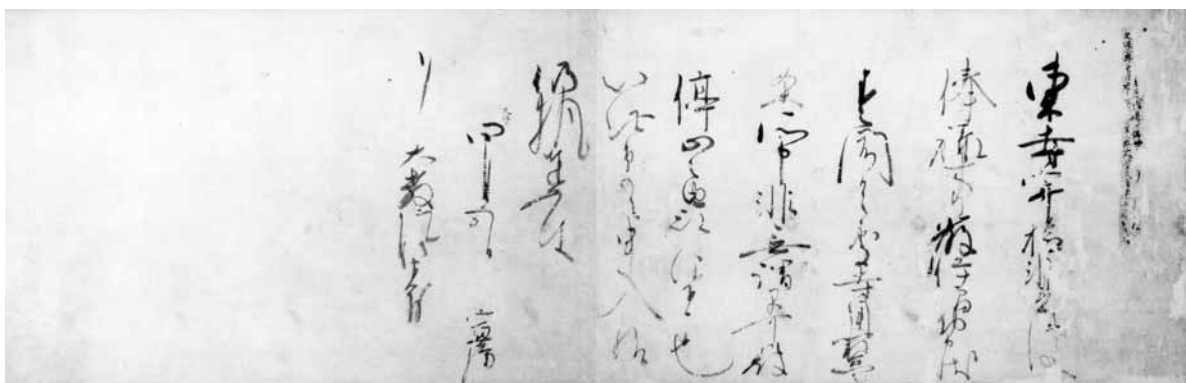
奉書の中でも三位以上の貴人の意を奉じたものを尊んで御教書みきょうしょといひます。さらに特殊な立場にある人の出す物は特殊な名称で呼びます。天皇の場合は綸旨りんじ、上皇の場合は院宣いんせん、皇太子・三后(太皇太后・皇太后・皇后)・女院・親王の場合は令旨りょうじといひました。武家文書においても、将軍が三位以上に列せられるとその奉書は御教書と呼ばれました。僧侶の文書にあっても、寺

院の管長である門跡や門主・長者の地位により令旨・御教書と呼ばれたのです。

奉書に対し、自分の意を直接伝える形式の文書を直状じきじょうと呼びます。奉書で意を伝えるのが通常である立場の人が、特に直状の形式をとって文書を出した場合、御内書とか自筆御教書といった特殊な呼び方をして、他と区別するのです。

今回の展示は、東寺百合文書に残る多くの奉書・直状から、綸旨・院宣・令旨・御教書などの諸例を広く紹介しようとするものです。

写真1は、文保2(1318)年4月5日、後宇多上皇が東寺寄検非違使の俸禄停止を命じた院宣です。平安時代、寺院や神社には検非違使庁の役人が警備の役に遣わされていましたが、この頃には有名無実化し、俸禄だけが既得権として寺社から徴収されていました。東寺の堂舎や道



▲写真1 後宇多上皇院宣

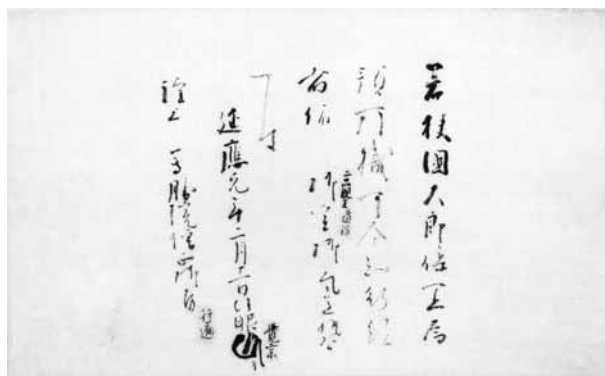
具の管理を司る巖伊僧都は、それが寺の経済には負担であるとして、停止を訴えていましたが、それが認められたのです。

写真2は、延応元(1239)年2月11日、御室宮道深法親王が尊勝院僧正行遍を、若狭国太良庄の預所職(荘園の管理人)に任命した令旨です。翌年、法親王は太良庄を東寺に寄進し、太良庄は東寺領となります。行遍は、後白河法皇の息女宣陽門院の信任が厚く、太良庄のほか弓削島庄、大和国平野殿庄(奈良県平群町橿原)など女院が東寺に寄進した荘園を、供僧の支配下におくことで、東寺の中興に力を尽くしました。

写真3は、文永11(1274)年3月4日、興福寺一条院門跡信昭が大和国平野殿庄の没官領(罪科により没収された官僚の所領)に立てられた点札(差押えを示す立札)を抜くよう命じたことを伝えた御教書です。大和国は興福寺の勢力が強く、その僧侶が東寺に無断で点札を打ちました。東寺は一条院を管領して門跡を出している近衛家に訴えた結果、この御教書が出されたのです。

写真4は、永仁2(1294)年10月23日、藤原氏^{うじ}の長者近衛家基が、伏見天皇綸旨に添えて興福寺に遣わした藤氏長者宣です。大和国高殿庄は、奈良県橿原市高殿町にあった東寺領ですが、その内鎮守八幡宮御供料所が、この年興福寺西金堂衆の濫妨を受けました。東寺は朝廷に訴え、伏見天皇の綸旨により濫妨を止めよとの裁許が下りました。興福寺は藤原氏の支配下にあったので、その長者宣によって綸旨が施行されたのです。

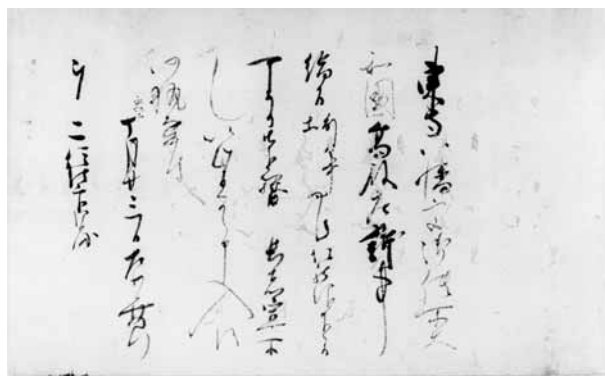
写真5は、応安元(1368)年閏6月17日、室町幕府管領細川頼之が、伊予国弓削島庄領家職の土地を、東寺雑掌に沙汰付けるよう伝えた文書です。宛名は頼之の弟細川頼有で、四国の守護でもあった細川頼之が、管領として京都にいる間、兄に代わって四国を治めていました。



▲写真2 御室宮令旨



▲写真3 一条院門跡御教書



▲写真4 藤氏長者宣



▲写真5 室町幕府管領細川頼之内書

京 都 の 祭

人々は遠い昔から豊作を望み、地域の泰平を願い、個々人の無病息災を祈って、祭をしてきました。それは、地域や民族、農村や都市を超えて共通してみられる人々の願いでもあります。

京都の祭は京都の風土と歴史の中から育まれてきたものです。京都の土地を反映して、海の祭、山の祭、都市の祭、農村の祭など、いろいろなものが見られるのも、様々な歴史風土を持つ京都の特徴でしょう。

一般に「京都の祭」というと、日本三大祭の一つである祇園祭、加えて京都の三大祭である葵祭、時代祭が思い浮かびますが、元旦の歳旦祭に始まり大晦日の除夜祭まで、実に様々な祭が行われています。

1月は若水祭を始め、新年 竟 宴祭、初大国祭など新年を迎える祭が行われます。2月は吉田神社などの節分祭、伏見稲荷神社の初午の大祭が行われます。毎年2月2番目の子の日、午後2時から行われる、上賀茂神社の乙子の祭である燃灯祭、同神社の成年男子を祝う幸在祭、そして北野天満宮の梅花祭と続きます。

3月には、人形の寺宝鏡寺で雛まつりが、貴船神社では、雨乞祭が行われます。4月は祭の本番です。やすらい祭は、今宮神社の他、玄武神社、大神神社でも行われます。お酒の神様、松尾大社の神幸祭や、宮津市の籠神社の葵祭もこの月です。5月には、豊作を祈願して、南丹市日吉町多治神社の御田植祭が行われます。京都市内では、御輿巡幸、馳馬神事、神楽奉納が行われる藤森神社の藤森祭、松尾大社の還幸祭と続きます。伏見稲荷の還幸祭である稲荷祭は4月から引き続き行われます。そして下鴨神社で葵祭の前儀である御蔭祭が、15日には上賀茂・下鴨両社で葵祭が行われます。また、嵐山車折神社の三船祭は、渡月橋上流に竜頭鱗首の舟を浮かべ、王朝の昔を再現する典雅な祭です。

6月には、貴船神社の貴船祭、宇治の県神社では県祭があります。7月になると、いよいよ祇園祭です。古くは祇園御霊会と呼ばれ、貞観11(869)年に疫病退散を願い、神泉苑に当時の

国数と同じく66本の鉦を立て、神輿の渡御によって、災厄の除去を祈ったことに始まったといわれています。7月1日の吉符入りに始まり、17日の山鉦巡行、24日の神輿渡御を経て、31日の境内摂社、疫神社夏越祓で幕を閉じるまで、各種の神事、行事がひと月の間繰り広げられます。また、白峯神宮の精大明神例祭では、七夕小町踊や綾姫舞が奉納されます。伏見稲荷大社の本宮祭では、万灯の神事が幻想的に行われます。27、28日に行われる、与謝郡伊根町八坂神社の伊根祭は海の祇園祭と呼ばれ、御神輿を乗せた御座船と、笠鉦、山鉦の供奉船や船屋台が、笛太鼓の囃子で海上渡御を行います。8月には、若宮八幡宮大祭、陶器神社大祭が行われます。

9月は五穀豊穰などを祈願して130年前に始まった松尾大社の八朔祭、石清水八幡宮の石清水祭が行われます。10月には下鴨神社の神嘗祭、大宮町大宮売神社の周枳祭、口丹波の祇園祭と呼ばれ、神輿と山鉦の巡幸が行われる亀岡鉦山神社の亀岡祭があります。北野天満宮のずいき祭、御香宮神社の神幸祭、太秦広隆寺の牛祭、京北の山国祭など、数々の祭が目白押しの一と月です。平安遷都1100年を記念して始まった時代祭も22日に行われます。また、この日は夜に、やすらい祭・牛祭と共に三大奇祭の一つである鞍馬の火祭が行われます。11月は、護王神社の亥の子祭の他、伏見稲荷大社を始め、各神社で火焚祭が行われます。

そして12月には北野天満宮の献茶祭、地主神社の大国祭など一年の締め括りとなる祭が各地で行われ、元旦へと引き継がれるのです。

ここに挙げたもの以外にもたくさんの祭があります。多様なこれらの祭は、神社などの神事と密接に結びついています。神事としての祭だけでなく、出し物や芸能が素晴らしく、見応えのある祭などが、府内各地で見受けられます。これも京都の祭の多様性を表わしています。

*No148の3頁の表中、亀岡市の欄に誤記がありました。
(誤) 田野村→(正) 蕪田野村

所蔵関連資料一覧 —京都三代祭りを中心に—

書名	著者等	出版年
《祭礼一般》		
日本歳事史 京都の部	江馬務著	1922
亀山祭 解説と史料	亀岡市文化財保存会編	1955
日次紀事 本文と索引	大阪女子大学編	1982
京都歳時記	宗政五十緒編	1986
丹後6町のまつり100	京都府峰山地方振興局編	1989
都道府県別祭礼行事 京都府	高橋秀雄監修	1992
民俗祭事の伝統 丹波・亀岡のまつり	民俗祭事調査会編	1992
京の祭歳時記	横山健蔵著	1993
京の祭と歳時12ヵ月	落合俊彦著	1999
山・鉦・屋台の祭り 風流の開花	植木行宣著	2001
岩滝の大祭礼	福持昌之編著	2002
府内の祇園祭	横山健蔵写真	2002
京の歳時記今むかし	山路興造監修	2006
《やすらい祭》		
やすらい祭の由来	今宮神社編	19--
やすらい花調査報告書	芸能史研究会編	1977
京都洛北やすらい祭	立大産業社会学部編	2003
《葵祭》		
加茂神社葵祭解説	歴史民俗研究会編	1920
賀茂葵祭解説 改訂版	江馬務著	1929
葵祭と賀茂神社	関西名勝史蹟調査会編	1931
葵祭と賀茂神社	渡辺俊編著	1931
下賀茂神社葵祭風景謹写	岡本東洋撮影	1938
葵祭の志おり	賀茂別雷神社社務所編	1965
葵祭(賀茂祭)		1991
葵祭・祇園祭・時代祭	東海旅客鉄道(株)編	1992
下鴨神社と糺の森	賀茂御祖神社編	2003
京の葵祭展	京都文化博物館編	2003
《祇園祭》		
祇園会細記		江戸期
祇園会鉦記		〃
祇園神輿洗ねり物絵客列書	有楽斎長秀画	〃
古代山鉦図譜	京都祇園会編	〃
山鉦由来記 2巻	丸屋善兵衛	〃
山鉦由来記 2巻 絵入	山本長兵衛	〃
六月十四日祇園会山鉦列書	有楽斎長秀画	〃
祇園会山鉦装鈔		〃
祇園会山鉦之由来	有楽斎長秀画	〃
八坂神社神輿洗ねり物姿絵	泰門作	1880
京都祇園会十七日山鉦ノ図	墨小	1884
京都祇園会図会	浅井広信著	1894
祇園会懸装図鑑	碓井小三郎著	1909
八坂神社祭礼行列案内	八坂神社社務所編	1910
祇園会山と鉦のはなし	秋山愛三郎著	1918
青門杉戸祇園会山鉦集	住吉具慶画	1921
文献に顕はれたる祇園会に関する目録	有楽会	1928
八坂神社と祇園まつり	渡辺俊著	1930
京都らしい祇園祭史	京都史蹟宣揚会編	1932
祇園会山鉦の由来及図		1934
祇園会ねり物復興記念帖	祇園新地乙部貸座敷組合編	1936
祇園ねりもの	田中緑紅著	1936

書名	著者等	出版年
祇園神輿洗ねり物絵容	吉川観方画	1936
山鉦	八坂神社社務所	1940
日本の誇 祇園祭 第2版	野村錦翠著	1941
祇園会と山・鉦装飾	明石染人著	1951
山鉦の志おり	祇園会山鉦巡行協賛会編	1951
祇園祭 1963~(欠あり)	電通京都支局編	1963
祇園祭 戦後のあゆみ	京都市文化観光局編	1967
祇園祭 山鉦実測	京都市文化観光局編	1968
重要文化財祇園会鯉山飾毛綴修理報告書	鯉山保存会編	1968
囃子方が観た祇園祭	川崎勝三著	1968
祇園会山鉦「鷹山」関係史料 上・下	同志社大学人文研編	1969
祇園祭山鉦由緒及びその附属品目録 1・2	京都市文化観光局編	1969
祇園祭・山鉦の銅掛	サントリ一美術館編	1970
祇園祭 鉦立と細部意匠	近藤豊著	1970
近世祇園祭山鉦巡行史 改訂	祇園祭山鉦連合会編	1974
祇園祭	祇園祭編纂委員会編集	1976
祇園祭 写真記録	祇園祭山鉦連合会編	1978
祇園祭 町衆としきたり	祇園祭山鉦連合会編	1979
祇園祭山鉦鯉山	鯉山保存会編	1980
講座記録祇園祭	祇園祭山鉦連合会編	1981
祇園会山鉦大鑑	若原史明著	1982
祇園ばやし	片岡義道編著	1982
祇園祭山鉦絵図 第1-3	京都名所行事絵図刊行会編	1985
京の祭の遺宝剣鉦の伝統展	京都市社会教育振興財団編	1986
祇園祭蟻螂山由来記 改訂	蟻螂山保存会	1986
ドキュメント祇園祭	米山俊直編著	1986
祇園祭 山鉦実測 再版	京都市文化観光局編	1987
講座祇園囃子	祇園祭山鉦連合会編	1988
祇園祭山と鉦の懸装品 復元新調録	祇園祭山鉦連合会編	1989
祇園祭細見 山鉦篇3版	松田元編画	1990
祇園祭山鉦懸装品調査書	祇園祭山鉦連合会編	1991
祇園祭山鉦懸装品調査報告書	梶谷宣子著	1992
祇園祭大展	祇園祭山鉦連合会編	1994
京都祇園祭の山鉦の図のある江戸時代の板本	大島居総夫著	1995
《牛祭》		
太秦牛祭祭文		江戸期
太秦牛祭畫卷	高島千春縮図	1817
太秦牛祭	田中緑紅著	1948
《時代祭》		
平安神宮時代祭行列図譜	平安遷都記念祭協賛会編	1895
平安時代祭史	京都史蹟宣揚会編	1930
時代祭徳川式衣類器具目録簿	京都市第六社	1936
現代版・時代祭	京都商工会議所編	1984
時代装束	京都書院	1995
時代祭徳川城使上洛列報告書	修徳自治連合会編	1999
平安神宮時代祭行列次第	平安神宮編	2004
時代祭鞍馬の火祭嵐山もみじ祭	菊池聡編	2004
《火祭》		
鞍馬山歳時記	信楽香雲著	1970
四季の鞍馬	高橋良和文	1983
フィールドワーク鞍馬の火祭り	立命館大学高木ゼミ編著	1999

琵琶湖疏水建設の周辺

1 琵琶湖疎水と京都府

この夏の収蔵品展では、「琵琶湖疎水の建設」と題して、行政文書を中心とした展示を行いました。この欄では、収蔵品展で展示しきれなかった疎水建設周辺の興味深い事実の紹介を行いたいと思います。

滋賀県大津の三保ヶ崎から鴨川までの第一疎水と、蹴上から東山山麓を通過して堀川に流れ落ちる疏水分線は、明治18(1885)年6月から明治23(1890)年4月までに建設されました。その目的は、舟運・水力利用・市街地の用水・灌漑用水の確保など、多様なものでした。経費は、上・下京区の財産である産業基金を中心に、府・国からの新たな下渡金、臨時税、市公債によってまかなわれ、総額125万2579円余(明治22年の府歳出決算額は約64万3000円)を費やしました。

当館では、琵琶湖疎水関係のまとまった行政文書として、「琵琶湖疎水事務所文書」244点、「京都市水利事務所文書」14点、「京都市水路事務所文書」7点を所蔵しています。「琵琶湖疎水事務所文書」は、第一疎水の建設に直接関わる文書で、疎水工事のために、府庁内あるいは工事現場の滋賀県滋賀郡藤尾村(現大津市藤尾)に設置された疎水事務所で作成・収受されたものです。「京都市水利事務所文書」は、疎水の水力を使用する工事に着手するために、明治23年6月に設置された水利事務所で作成・収受された文書です。「京都市水路事務所文書」は、京都・伏見間に新運河を建設するため、明治23年

9月に設置された水路事務所で作成・収受された文書です。

第一疎水建設工事当初、京都市はまだ設置されておらず、工事途中の明治22年4月に京都市が成立したものの、市長を府知事が兼ね、府庁で市の事務も執るという「特別市制」が敷かれていたため、前記の各事務所も府庁の出先機関として設置され、また残務処理も府庁内で行われていました。そのために第一疎水建設工事関係の資料が、京都府に残されたものと考えられます。なお、京都市が独自の行政組織をもつのは、特別市制が廃止された後の、明治31(1898)年10月からになります。

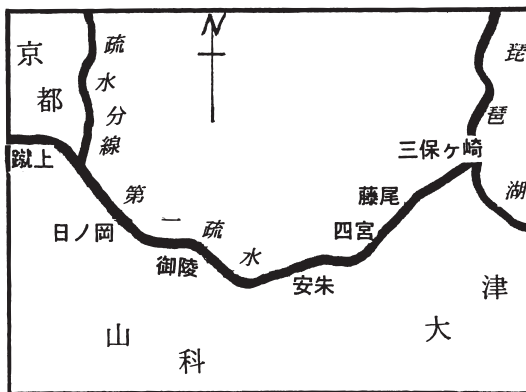
2 疎水堤防の整備

疎水の堤防には、堤防の強度保持、また美観のため、建設当初から多くの樹木・草花が植え付けられました。

山科盆地北側の四宮・安朱・御陵・日ノ岡を通じる山科運河の開削が終了した明治21年4月、これから整備される運河石垣への植え付けを目的に、桜115本(34円50銭相当)の献納届が提出されています⁽¹⁾。この届は、疎水事務所に勤務していた府技手南謙三・属虫明常次郎・雇内藤朝義の3名からのもので、南は明治18年11月から、虫明・内藤は明治18年6月から第一疎水工事の終了まで疎水事務所に勤めた工事の中核メンバーでした。疎水建設に関連して、府の職員が寄附をする事例は他にも見られますが、多くは組織全体に割り当てられたものか、府知事などの幹部が職務上の要請から行ったものです。この寄附も、職務上のものと考えられますが、現場の担当者だけに、思いがこもったものだったのかもしれません。

この他、同年6月中に、大津・宇治・上京・愛宕・神戸などの村や個人から、松樹150本・躑躅175本・桜98本や土地・金銭の寄贈願が19件、疎水事務所にあったことが記録されています⁽²⁾。

また、明治22年の2月には、滋賀県の滋賀郡役所から寄贈された山桜100本が、三保ヶ崎から



▲第一疎水略図

第一トンネル東口までの大津運河の両岸に植えられ⁽³⁾、下京区川端正面下る上堀詰町の伊藤喜三郎ほか2名からの桜60本、松2本、杉丸太100本(計35円相当)の寄附も記録されています⁽⁴⁾。

さらに、樹皮が紙の原料となる楮の苗木を大量に買入れ、生長した約10万本を山科運河と、疏水分線の一部に移植したとの記録もあります⁽⁵⁾。

このように、疏水の堤は実用と鑑賞を兼ねて、建設当初から樹木に覆われることとなります。

3. 煉瓦工場跡地の行方

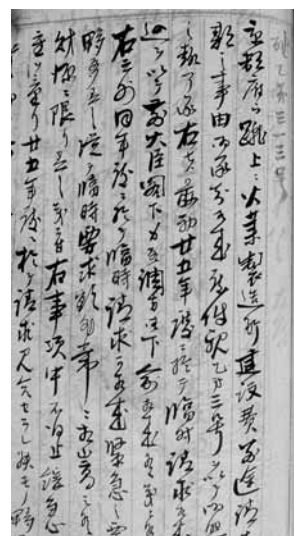
第一疏水工事の期間中、140万個の煉瓦を製造した疏水事務所直営の煉瓦工場敷地は、現在の京阪京津線御陵駅^{みささぎ}附近の約1万3500坪におよんでおり、その内、4000坪は府が買い上げたものでした。工事終了後、この敷地の処理が課題となりますが、当初有力だったのは、陸軍の火薬製造所にする案だったようです。

明治維新直後から、西日本の軍事拠点として重要都市を控え、水運の便が良い淀川・宇治川水系が注目されていました。明治初年に大阪城跡の大川沿いに大阪鎮台(後の第四師団)と造兵司(後の大阪砲兵工廠)、宇治川沿いの五ヶ庄村(現宇治市)には黄檗火薬庫が設置され、明治10年の西南戦争には、早速これらの施設が機能します。

その後、清国との戦争をにらんだ明治20年代前半には、中国大陸に近い関西での火薬製造所の建設が課題となります。その中で、陸軍は一時、疏水煉瓦工場の跡地をその候補地に考えていたようです。あまり多くの資料は残されていませんが、「親展来書」(明21-10)という簿冊に、明治24年8月の大阪砲兵工廠提理(工廠の業務の統括者)太田徳三郎から北垣府知事あての書面が綴られています。それには、これまで「蹴上御陵村ニ火薬製造所建築地」の調査にお手数

▲樹木などの寄附願の一覧 (明23-28)

をかけたが、本年の帝国議会に設置議案を提出することは「見合」^{みあわせ}になった。その理由は別紙のとおりとして、陸軍省軍務局砲兵事務課長からの通知が添付されています。その通知には、明治25年度に予算の臨時請求を行わなければならない案件が他に多数あり、火薬製造所の設置は他のいくつかの要件と同様に後年に後回しにせざるを得ない、とあります。



▲陸軍省から大阪砲兵工廠への通知 (明21-10)

この御陵への火薬製造所の設置計画はこの後立ち消えとなり、結局、日清戦争開始後の明治27年9月13日に、黄檗火薬庫に隣接する宇治郡宇治村五ヶ庄(現在の自衛隊宇治駐屯地と京都大学宇治キャンパス)に火薬製造所を設置することが決定され、日清戦争中の明治27年11月に仮製造所の運用開始、さらに戦争終結後の明治29年4月に正式に開所されます。

御陵に火薬製造所が建設されなかったのは、前述のような軍備拡張計画のなかでの予算配分の問題の他に、土地の広さと水運の問題があったようです。宇治の製造所の敷地は17万1000余坪にものぼりますが、この規模の用地を御陵で確保するのは困難でしょうし、火薬を運び出す際にも、疏水を利用した場合には京都市街を通過することになり、その危険性は無視できなかったでしょう。

桜と火薬という2つのエピソードから疏水建設の様々な側面が見えてきます。

(歴史資料課・行政文書担当 福島幸宏)

註記

- (1)「官吏指令」(明21-7)
- (2)「賞与原書」(明23-28)
- (3)(5)『琵琶湖疏水の100年<叙述編>』
(京都市水道局、1990)
- (4)『琵琶湖疏水要誌 附録』
(京都市参事会、1895)



最近の収集資料から(平成18年6月～8月)



〈京都〉

京都愛宕山と火伏せの祈り 八木透編 昭和堂
2006 7, 253, 6p

日本基督教団京都西田町教会八十年史 1920～
1999 日本キリスト教団京都西田町教会教会史
編纂委員会編 日本キリスト教団京都西田町教
会 2005 401p 寄贈

京(みやこ)から出土する土器の編年的研究 日
本律令的土器様式の成立と展開 小森俊寛監
修・著 京都編集工房 2005 432p 寄贈

京都タイムスリップ 遺跡でつづる京都の歴史
京都府埋蔵文化財調査研究センター[編]刊
2006 177p 寄贈

ひよし再発見 谷口哲著 日吉町 2005 191p
寄贈

水原区誌 水原区誌編集委員会編 京都府船井
郡瑞穂町水原区 2005 410p

洛北修學院村上下御茶屋之圖 應文寫 井上治
兵衛 [明治年間] 1枚 寄贈

新舞鶴案内記 高柴貞雄編 新舞鶴案内編纂會
1911 40, 15p 寄贈

近代京都の改造 都市経営の起源1850～1918年
伊藤之雄編著 ミネルヴァ書房 2006 18, 346, 7p

昭和二年北丹後地震 家屋の倒壊と火災の連鎖
蒲田文雄著 古今書院 2006 16, 215p

京都産業大学40年史 1965～2005 京都産業大
学大学史編纂室編刊 2005 122p 寄贈

京大探検部 1956-2006 京大探検者の会編
新樹社 2006 511p 寄贈

台風23号災害と水害環境 2004年京都府丹後地
方の事例 植村義博著 海青社 2005 103p

町家再生の創意と工夫 事例に見る改修の作法
と手順 京町家作事組編著 学芸出版社 2005
183p

庭園の中世史 足利義政と東山山荘 飛田範夫
著 吉川弘文館 2006 5, 209p

芸術創造拠点と自治体文化政策 京都芸術セン
ターの試み 松本茂章著 水曜社 2006 279p

襖の華 京都中常圖録 中笠常七本店[編]刊
1928 50枚 寄贈

〈人文〉

前近代日本における識字状況に関する基礎的研
究 大戸安弘研究代表 識字研究会 2006
160p

国立民族学博物館三十年史 人間文化研究機構
国立民族学博物館編刊 2006 497p 図版8枚
寄贈

古記録による15世紀の天候記録 水越允治編
東京堂出版 2006 13, 748p

きもの産業白書 2006年版 矢野経済研究所生
活産業調査本部ファッション事業部編 矢野経
済研究所 2006 502p

須磨寺「當山歴代」 摂津国八部郡福祥寺古記録
三浦真巖編 大本山須磨寺塔頭正覚院・校倉書
房 1989 301p 図版12p 寄贈

日本古代史大辞典 旧石器時代～鎌倉幕府成立
頃 上田正昭監修・編集 大和書房 2006
6, 666, 205, 49p

律令国家と神祇祭祀制度の研究 西宮秀紀著
塙書房 2004 482, 48p

日本中世の墓と葬送 勝田至著 吉川弘文館
2006 6, 341, 16p 寄贈

書で見る日本人物史事典 坪内稔典監修 柏書
房 2006 271p

日本仏教美術史研究 続 中野玄三著 思文閣
出版 2006 6, 484, 36p

国宝紅白梅図屏風 MOA美術館編 中央公論
美術出版 2005 202p

写真レファレンス事典 人物・肖像篇 東京都
写真美術館監修 日外アソシエーツ 2006
12, 866p

歌舞伎登場人物事典 河竹登志夫監修 白水社
2006 6, 937, 139p 図版16p

〈官庁〉

南山城地域航空写真 京都府[撮影]刊 1978
1冊

南丹・中丹地域航空写真 京都府[撮影]刊
1978 1冊

新京都市観光振興推進計画 ゆとり、うるおい、
新おこしやすプラン21 [本編]・資料編 京
都市産業観光局観光部観光企画課[編]刊
2006 2冊 寄贈

京丹後市地域防災計画 一般計画編・震災対策計画編・資料編 京丹後市防災会議編刊 2006 3冊 寄贈

日本長期統計総覧 第1・2巻 総務省統計局監修 日本統計協会 2006 2冊 寄贈

出生に関する統計 人口動態統計特殊報告 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2006 339p

派遣労働者実態調査報告 平成16年 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2006 159p 寄贈

男女間における暴力に関する調査報告書 内閣府男女共同参画局[編]刊 2006 125p 寄贈

我が国の食料自給率とその向上に向けて 食料自給率レポート 農林水産省総合食料局食料企画課 2006 114p 寄贈

商業販売統計年報 平成17年 経済産業省経済産業政策局調査統計部編 経済産業調査会 2006 34,209p 寄贈

◆文書資料 (新しく公開する資料)

東寺旧記抄 東寺廿一口供僧方評定引付の抄出本 明徳5(1394)年~天文23(1554)年 東洋文庫所蔵 写真版収集

東寺古文書目録 前田綱紀による東寺文書調査に際して作成された目録 東洋文庫所蔵 写真版収集

東寺記 伊勢松坂小津桂窓の西荘文庫旧蔵の「東寺執行日記」写本 天理図書館所蔵 写真版収集

宏寿法印御聞書 平松家旧蔵 中世東寺の僧侶が書いた記録 京都大学附属図書館所蔵 写真版収集

東寺長者知行法務凡僧別当款状並宣旨符案 江戸時代の東寺長者・凡僧別当の款状や宣旨を集めたもの 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

正平古文書 正平6(1351)年12月10日「足利義詮御判御教書」・正平10(1355)年正月26日「細川氏清書下」 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

古文書 鎌倉後期から南北朝にかけての古文書7通を集めたもの 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

太政官牒 貞永元(1232)年10月2日付け定額僧の補任に関するもの 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺文書案 東寺造営の料所などに関する中世文書を写したもの 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

王代年代記 東寺執行栄増が記した天神七代から後花園天皇までの年代記 写本 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺草創以来事 東寺長者にも就任した聖無動院道我の記録 写本 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺観智院古文書 延慶元(1308)年「弥一御前御髪生始事」・暦応元(1338)年11月日「八幡宮立柱上棟儀」 写本 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺長者補任 寛永11(1634)年から寛文元(1661)年までの記載 報恩院寛済所持本の写本 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺古文書 東寺の古文書写 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺堂舎等損亡検注帳 建久3(1192)年11月5日・治承3(1179)年6月日付けの2通 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

仁和寺年代記 「東寺王代記」と同内容の年代記 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

参河国額田郡山中郷南方公田等名寄帳 永和3(1377)年9月日 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

最勝光院寺領年貢算用注進状 正中2(1325)年3月日 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

太政官牒 平安時代の定額僧補任に関するものを集めたもの 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東大寺古文書 東寺に関する古文書を集めたもの 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

東寺長者拝堂記 永享5(1433)年3月21日 東寺一長者地蔵院持円の拝堂記録 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

善通曼陀羅寺両寺領注進状案 文安元(1444)年12月日 宮内庁書陵部所蔵 写真版収集

竹下氏旧蔵京都関係文書 杉浦家日記・書状・心学覺舎関係文書、公家日野家の奉公人請書・親類書、千切屋(石田)五兵衛家・池沢家の借用証書類ほか。杉浦家の日記は「杉浦家歴代日記」(文献課)と関連する。近世後期~明治期。907点。寄贈。

田中氏旧蔵渡辺千秋書状 第6代京都府知事渡辺千秋が京都府警部長田中貴道に宛てた書状類。日清戦争、第4回内国勸業博覧会に関わる内容等が含まれる。明治28年ほか。5点。寄贈。

総合資料館府民講座のお知らせ

◆10月19日(休) 午後2時～

上島有氏 (摂南大学名誉教授)

演題「東寺百合文書の魅力を探る」

※第21回東寺百合文書展記念講演

◆11月4日(土) 午後2時～

中ノ堂一信氏 (京都造形芸術大学教授)

演題「京の工芸－京焼－」

◆11月18日(土) 午後2時～

井上満郎氏 (京都産業大学教授)

演題「桓武天皇と渡来人 (仮題)」

※11月の府民講座は土曜日に開催します。

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。

*満席で受講をお断りする場合があります。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 庶務課

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

メール shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp

友の会事務局から

今年も秋にバスによる見学会を予定しています。当館恒例の東寺百合文書展の列品解説もあります。皆様のご参加をお待ちしています。

◆見学会

10月31日(火)、11月1日(水)の両日、美山町かやぶきの里 北村、福井県立若狭歴史民俗資料館、神宮寺、興聖寺を見学します。

◆第21回東寺百合文書展の列品解説

10月12日(火) 午後2時～

◎7月16日(日)、105名の会員の皆様の参加を得て、金剛能楽堂(京都市上京区)において現地講座を実施しました。

宗家の金剛永謹氏からお話を聞き、ずらりと並んだ能面・能装束を見学しました。

◎随時入会の申込みを受け付けています。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解読についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌 (平成18年6月～8月)

- 6. 7(水) 府民講座(第35回)
- 6. 13(火) 第175回古文書相談
- 7. 16(日) 友の会現地講座(金剛能楽堂)
- 7. 28(金) 第176回古文書相談
- 8. 11(金)～9. 12(火) 収蔵品展
- 8. 11(金) 講演会「尾形光琳と光琳模様」
- 8. 19(土) 第177回古文書相談

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

【10月～12月の休館日】

10月9日(水)、10月11日(祝)、11月3日(祝)、
11月8日(水)、11月23日(祝)、12月13日(水)
12月23日(祝)、12月28日(水)～1月4日(水)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス⑳ ㉔ ㉕ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています